

題字の写真は、市村緑（読者投稿）さんから写真の投稿です。私は生まれて初めて見てびっくりでした。直径1センチほどでフワフワ。まるで天使の翅のようでした。でもその正体は、なんと「蛾の幼虫」らしいのです。いろいろ調べたり、人に聞いたりしたのですが、たぶんオオシロホシハゴロモの幼虫ではないかと思えます。

# 紅葉台



# 新聞

第151号  
2024年  
10月12日  
発行人：関谷 孝

## 八王子の美術館 東京富士美術館



八王子は、美術館が充実しています。主なところでも、東京富士美術館（創価大学前）・村内美術館（村内家具店内）・八王子市夢美術館（八王子市内いちょうホール近く）・高尾山トリックアート（高尾山口駅前）の4か所があります。こんな小さな町にも立派な文化施設があるのは珍しいのではと思います。

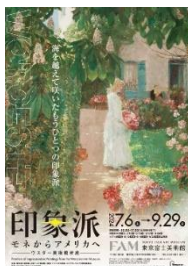
今回は、その中でもシニア散歩でよく行く「東京富士美術館」を紹介します。

9月10日（火）シニアクラブでは、「生きがい高める活動」の一つとして年に1~2回美術鑑賞をしています。八王子駅北口からバスで東京富士美術館前が出ています。とても大きく、立派な建物です。シニアは割引があり、今回は1200円で入場できました。東京の中心まで行くのは遠くて交通費もかかるし入館料も高いので近場で見る事が出来るのはいいですね。

この日は『「印象派 モネからアメリカへ」ウスター美術館所蔵の絵画を見る事が出来ました。冷房の効いた館内はとても綺麗で重厚感があります。初めに紹介ビデオを見ました。展示作品全体の内容を紹介しているので作品の内容や背景を知ることが出来、より詳しく鑑賞することが出来ます。モネというと、「睡蓮」を連想しますが、モネは43歳から86歳まで人生の半分をかけ睡蓮だけでも約300枚描いています。生涯では2000枚以上の絵を描いています。68歳で描いた作品が展示してありました。（写真上）



印象派が誕生したのは、19世紀後半。フランスの大都市パリには国外からも多くの画家が集いました。モネ、セザンヌなどパリで印象派に触れ、学んだ画家たちは、新しい絵画の表現手法を自国へ持ち帰ります。アメリカの印象派を代表するハッサムは、「アメリカのモネ」と言われています。光りの効果を生かした作品が有名です。他にもアメリカの風景を描いた作品がたくさん展示されていました。風景画は、鉄道の発達や絵の具が持ち運びできるものになったことから描かれるようになりまし。日本でも黒田清輝が影響を受けました。これまで日本で紹介される機会の少なかった、知られざるアメリカ印象派の魅力に触れる貴重な機会になり美術への関心を深めることが出来ました。



印象派が誕生したのは、19世紀後半。フランスの大都市パリには国外からも多くの画家が集いました。モネ、セザンヌなどパリで印象派に触れ、学んだ画家たちは、新しい絵画の表現手法を自国へ持ち帰ります。アメリカの印象派を代表するハッサムは、「アメリカのモネ」と言われています。光りの効果を生かした作品が有名です。他にもアメリカの風景を描いた作品がたくさん展示されていました。風景画は、鉄道の発達や絵の具が持ち運びできるものになったことから描かれるようになりまし。日本でも黒田清輝が影響を受けました。これまで日本で紹介される機会の少なかった、知られざるアメリカ印象派の魅力に触れる貴重な機会になり美術への関心を深めることが出来ました。

東京富士美術館は、東京都八王子市に、1983年11月に開館した私立美術館です。（40年前にできました）収蔵作品は約30,000点にも及び、世界各国、各時代の絵画・版画・陶磁・漆工・武具・刀剣・メダル・写真などの様々なジャンルの作品を幅広くコレクションしています。とりわけルネサンス時代からバロック・ロココ・新古典主義・ロマン主義を経て、印象派・現代に至る西洋絵画500年の流れを一望できる油彩画コレクションと、写真の誕生から現代までの写真史を概観できる写真コレクションは、最大の特徴です。展覧会活動としては、「世界を語る美術館」をモットーとし、海外から日本にもたらされた展覧会では、ルーヴル美術館をはじめ海外の著名な美術館の名品を紹介しました。1階レストランもお勧めです。

時間10時~17時 休館日 月曜日 作品入れ替え時期 お出かけの際は、ネットであらかじめ調べてください。

## 粕谷和夫の観察日記



秋はヤマハギ、ヌスビトハギ、クズなどのマメ科の花が目立ってきます。ツルマメ、ヤブマメも花はあまり目立ちませんが、ツルがよく似た草です。多摩川の河原を歩いていたらツルマメの可憐な花に出会いました。よく見ないと見落としてしまいますが、このツルマメは大豆の原種と言われています。縄文人が長い年月をかけて大豆に作り上げた賜物です。



9月6日、久しぶりに裏高尾の日影林道を往復して、小仏城山に登ってきました。林道の1か所が先日の台風10号の大雨で崩壊していました。ツリフネソウとキツリフネの花に暑さを癒されました。花の後ろ側まで伸びる「距」と呼ばれるガク片の1つがあり、ツリフネソウは先端が渦巻きの形をしています。キツリフネの花の「距」は巻いていません。距にはたっぷりの蜜が詰まっていて、昆虫を呼び寄せ花粉を運んでもらいます。ホウセンカの仲間で実が熟すと、さやを触れるだけで種子が弾け飛ぶ性質があり、この様子が、英名[touch me not]の名前の由来だそうです。



ツリバナは春、明るい雑木林で小枝の先端に長い花柄にぶら下がって花を咲かせ、人目を惹きます。秋に稔って赤くなった実は、とても魅力的です。9月11日、多摩ニュータウン内の長池公園でこの赤い実を見つけました。よく見ると赤い実を食べている虫がいました。専門家に聞くとキベラ

カメムシの幼虫で、青りんごの匂いが漂ってくるので、良い匂いのするカメムシとして知られています。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。